

情報モラル教育 喜多方市立第一中学校

キーワード：家庭でのルール作り、自己マネジメント

I 研究について

1 情報モラル教育に関する学校の課題

本校におけるメディア利用についての課題としては、家庭でのルール作りに関するものがその中心となっている。

これまで保護者会や学校からの文書等を通して家庭でのルール作りやその見直しを呼びかけてはいるが、保護者と子どもが向き合ってルール作りを行っていないため、ルール無しで生活しているか、保護者がルールを一方向的に押しつけている。そのため、子どもがルールを守ろうとする意識が低く、長時間使用による身体への影響や、ゲーム依存ととれる症状もみられる。

また、これらを解消するために、生徒と保護者向けにメディアコントロールへの理解を深める機会としての教育講座等を企画しても、保護者の参加者が少なく、理解を深めるには至っていない。

そこで、生徒・保護者のメディアに対する認識を把握するための実態調査を基に、自分事として受け止めさせ、メディアの利用について、改善するための方法を模索していくことが必要である。

2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時期	実践内容
4月30日	・第1回ふくしま情報モラル協議会（出席：校長・穴澤）
5月	・実践計画作成
6月	・アンケートによる実態調査①（生徒・保護者） ・講師派遣依頼
7月 2日	・第2回ふくしま情報モラル協議会（出席：穴澤）
7月11日	・情報モラル講座（講師：教育のための科学研究所 目黒朋子 様）
10月 5日	・授業実践（校内研修：会津大学 中村章人 様）
11月 4日	・第3回ふくしま情報モラル協議会（出席：穴澤）
11月 8日	・地区別研究協議会①
12月14日	・授業実践（校内研修：会津大学 中村章人 様）
1月	・アンケートによる実態調査②（生徒・保護者）
1月27日	・地区別研究協議会② 本校研究報告（オンライン）
2月 4日	・研究のまとめ ・第4回ふくしま情報モラル協議会（出席：穴澤）

II 研究の実際について

1 校内での実践

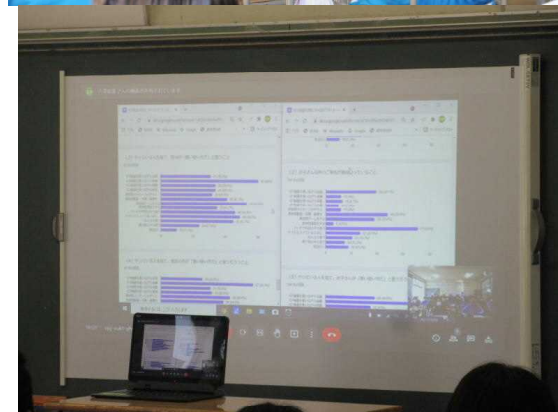
(1) 第1回：メディア利用の約束について（令和3年10月5日（火）5校時 学級活動）

家庭でのメディア利用について、ルールが無いままの生徒も多いため、そのレディネスをそろえる目的で学校が主導して家庭でのルール作りの機会を設けた。

事前課題として、生徒自身からみたメディア利用の課題と保護者からみた課題をワークシートに記入させた。この段階から保護者にも関わってもらうことで、家庭全体でのメディア利用に対する意識の向上を図った。

授業では、前半にリモート（GoogleMeet）で4学級同時にアンケート結果の解説と指導を行い、後半で学級ごとにワークシートでのまとめを行った。これにより、学級による指導内容の違いが起これないようにすることができた。

作成した約束は、家庭に持ち帰らせて保護者と話し合ったうえで修正し、実行するように指導を行った。



(2) 第2回：メディア利用の自己マネジメントについて

（令和3年12月14日（火）5校時 学級活動）

第1回の授業で作成したルールの実行状況を基に、より自律的な自己マネジメントの方法について考える授業を行った。

第1回と同様に前半にリモート、後半に学級別の活動を行った。前半の活動の中で、ルールを守れないときのありがちな状況についてケーススタディを行い、生活班での話し合い活動を行った。話し合いの中では素直に現状を話す姿が見られるとともに、より良い利用に向けて建設的な意見を出し合う姿も見られた。

ワークシートには、これまでのルールの取り組みを踏まえて、今後の「目指す姿」を考え、その実現のための方策をまとめさせた。その際に、自分で取り組むことのほかに、友人や家族など周囲の協力についても考えることで、自己マネジメントの第一歩とさせた。



(3) 指導過程

第1回

3 本時のねらい
自分のメディア利用についての課題を把握し、課題改善のために実効性のあるルール案をつくること
ができる。

4 指導過程
T1：情報教育担当（穴澤） T2：1組→河原田、2組→目黒、3組→只木、あおぞら②→鈴木

学習過程	担当	形態	時間	○指導上の留意点	□評価
導入 1 本時の目標をつかむ。 (1) 事前課題の内容を確認する。 (2) 本時の目標をつかむ。 <u>メディア利用の約束案をつくろう。</u>	T1	一斉	7	○T2：授業開始前にワークシートを配付する。 ○T1：一斉指導は GoogleMeet を使って配信する。 ○事前課題として、「自分からみたメディア利用の課題」「家族からみたメディア利用の課題」をワークシートに記入させておく。	
展開 2 アンケート結果をもとにメディア利用の現状を振り返る。 (1) アンケート結果を確認する。 (2) 自分のメディア利用の課題をアンケート結果をもとに見直す。 3 約束のつくり方を知る。 4 約束案をつくる。	T1	一斉	8	○T1：事前に実施した生徒・保護者のアンケート結果について、共通点と相違点を中心に、保護者がどのようなことを心配しているのかを解説する。 ○T2：事前課題の内容を見直し、約束づくりの際の優先順位を決めさせる。	
	T2	個別	5	○T2：事前課題の内容を見直し、約束づくりの際の優先順位を決めさせる。	
	T1	一斉	5	○T1：時間（いつ・どのくらい）・場所（どこで）・用途（どんなことに）・破った時のペナルティの4項目について考えさせる。 ○実現不可能な目標ではなく、実際により良い使い方ができるようになるために必要なことは何かを考えさせる。	
	T2	個別	20	○T2：約束の4項目について、なかなか書けない生徒には、自分の使い方を振り返らせながら、書きやすい部分から書いてみるよう助言する。 ○T1：4クラスを巡回しながら、T2のサポートをする。 <u>自分の現状をもとに、守ることができる約束案を具体的に書くことができるか。【ワークシート】</u>	
終末 5 約束案の仕方を確認する。	T1	一斉	5	○T1：約束案を家庭に持ち帰り、保護者の方と話し合って修正するよう指導する。 ○T1：12月に再度ルールについての見直しの機会を設けることを伝える。	

第2回

3 本時のねらい
自分のメディア利用のルールについて実行状況を把握し、自己マネジメントの案をつくること
ができる。

4 指導過程
T1：情報教育担当（穴澤） T2：1組→河原田、2組→目黒、3組→只木、あおぞら②→鈴木

学習過程	担当	形態	時間	○指導上の留意点	□評価
導入 1 本時の目標をつかむ。 (1) 前回の授業の内容を確認する。 (2) アンケート結果をもとにメディア利用の約束の実行状況を振り返る。 (3) 本時の目標をつかむ。 <u>メディア利用をマネジメントしよう。</u>	T1	一斉	10	○T2：授業開始前にワークシートを配付し、生活班をつくらせる。 ○T1：一斉指導は GoogleMeet を使って配信する。 ○T1：事前に実施した生徒のアンケート結果について、学年の傾向を解説する。 ○T1：マネジメントの意味を説明する。	
展開 2 具体的な場面について話し合う。 (1) 以下A～Cの各場面について、普段の自分ならどうするか話し合う。 A：動画を見終わったら、おすすめの表示に気になる動画を見つけた。あと5分でいつもなら寝る時間だ。 B：約束の時間なのでゲームを終わろうとしたら、友達から協力プレイのお誘いがあった。 C：友達とのメッセージのやり取りですでに30分話している。まだ今日の宿題が終わっていない。 (2) 「より良い家庭生活」の視点からどうするか話し合う。 3 自己マネジメントの案のつくり方を知る。 4 メディア利用の自己マネジメントの案をつくる。 (1) ワークシートに案を記入する。 (2) 代表生徒の発表を聞く。	T1	班	15	○T1：場面の状況を説明する。話し合いの中で、実際にそのように行動したら、どのような結果になるのかについても話し合ってみようとする。 ○T2：生徒の話し合いを促し、(2)の場面では、自分だけではなく周囲の人に聞かせてもらうこともできることを助言する。	
	T1	一斉	5	○T1：約束の重点事項を設定させ、その達成に必要なことを「自分」「友達の関わり」「家族の関わり」の3項目を中心に考えさせる。	
	T2	個別	17	○T2：なかなか書けない生徒には、アンケートの結果や話し合いの内容を振り返ってみよう助言する。 ○T1：4クラスを巡回しながら、T2のサポートをする。 ○T2：手本となるような案を2名程度発表させる。 <u>自分の現状をもとに、自己マネジメントの案を具体的に書くことができるか。【ワークシート・発表】</u>	
終末 5 自己マネジメントの取り組み方を確認する。	T1	一斉	3	○T1：マネジメント案を友達や保護者と話し合って取り組むよう指導する。 ○T1：冬休み明けに生徒・保護者への取り組み状況についてのアンケートを実施することを伝える。	

(4) 事後研究会について

事後研究会では、研究授業を実施した学年だけではなく全教員で取り組みを共有し、授業の内容や、校内での課題を中心に協議を行った。

協議の中で、現在はメディアを利用しないで生活していくことが難しい時代になっていることが話題に上がり、メディア利用だけに留まらず、様々な「～しすぎ」によって削られている時間に目を向けさせていく必要があるという意識を、全教員で共有することができた。

また、2回の研究授業を通して、会津大学の中村章人先生に指導助言をいただいた。より良いメディア利用の習慣をつけさせるためには、生徒の意識がリセットされる前に繰り返し取り上げて指導していくことが必要である、との御指導をいただいた。



Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 授業参観日に、教育のための科学研究所の目黒朋子先生に保護者・生徒向けに御講演いただき、情報モラルやメディアコントロールなどの情報教育全般にわたる啓発を行うことができた。
- 授業研究会で行った授業において、事前の実態把握や事後の変容を確認する段階で、アンケート等で保護者にも関わってもらう機会を増やしたことで、関心を高める環境をつくることができた。
- 授業研究会を実施した学年では、より良いメディアの使い方を意識して実践する生徒が増加した。
- 2回の授業研究会について、会津大学の中村章人先生から継続して御指導をいただいたことにより、生徒や学校の実態に即した助言をいただくことができた。

2 課題

- 成果で挙げた講演会の保護者参加率は全校の約 25 %程度であり、保護者の興味・関心はまだ十分には高まっていない。不参加の理由として、仕事等の理由が多かったが、それに次いで「以前に同じような内容の講演を聞いていた」を挙げていることから、講演等の内容や周知の仕方について検討し、保護者の課題意識を高める働きかけが課題である。
- 学校全体としては、学区内（小学校3校と本校）で設定した「メディア利用5つの約束」をきちんと守っている生徒は減少しているため、授業研究会を含めた校内での取り組みを、学区内で同一步調で行っていく必要がある。